

# 令和6年度 練馬城址公園・ワークショップのまとめ

## 1 開催概要

練馬城址公園は、令和3年度に整備計画が策定され、令和5年よりその一部を先行開園（約3ha）しています。

令和6年度は参加型ワークショップ（全2回）を開催し、未開園地（約8ha）の持つ魅力や可能性について話し合い、令和11年度概成に向けた整備イメージの具体化を図りました。

公募制：139名応募、40名を抽選



## 2 テーマ

『練馬城址公園の整備計画』に示した公園の将来像を具体化していくため、ワークショップで検討する“4つのテーマ”を設定しました。

- 樹木**：外周や崖線の樹林地、としまえん時代の象徴的な樹木の扱いについて
- 歴史**：練馬城～練馬城址豊島園（としまえん）と変遷する歴史性の継承について
- 水辺**：整備計画に位置付けられた水辺空間のあり方について
- 配置**：主要施設の配置や公園整備の影響について

## 3 第1回 現地見学

参加者の皆さんと現場を歩き（下記ルート図参照）、未開園地が抱える課題や魅力を発見しました。

「①開園時からの建築物“古城の塔”の継承要素」「②密度の高い外周樹林」「③練馬城を形作る谷と台地の地形」「④思い出のあるのある樹木（ヤシ等）」「⑤広がりのある空間」等、たくさんの発見を共有できました。

### ■現地見学のルート図



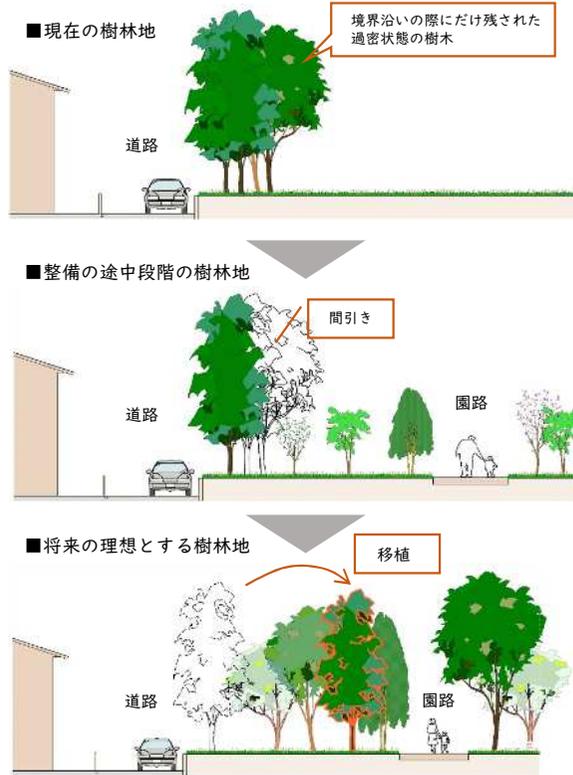
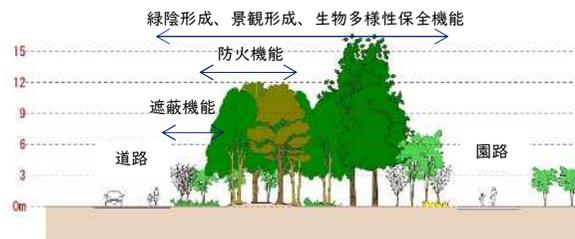
## 4 第2回 意見交換（検討結果 1/2）

意見交換では、現地見学やアンケート等で得たアイデアを元に、まず東京都の整備方針案を共有し、参加者との意見交換をしながら、整備イメージの具体化を図りました。東京都は具体化された整備イメージを踏まえて、今後の基本設計、実施設計を進めて参ります。

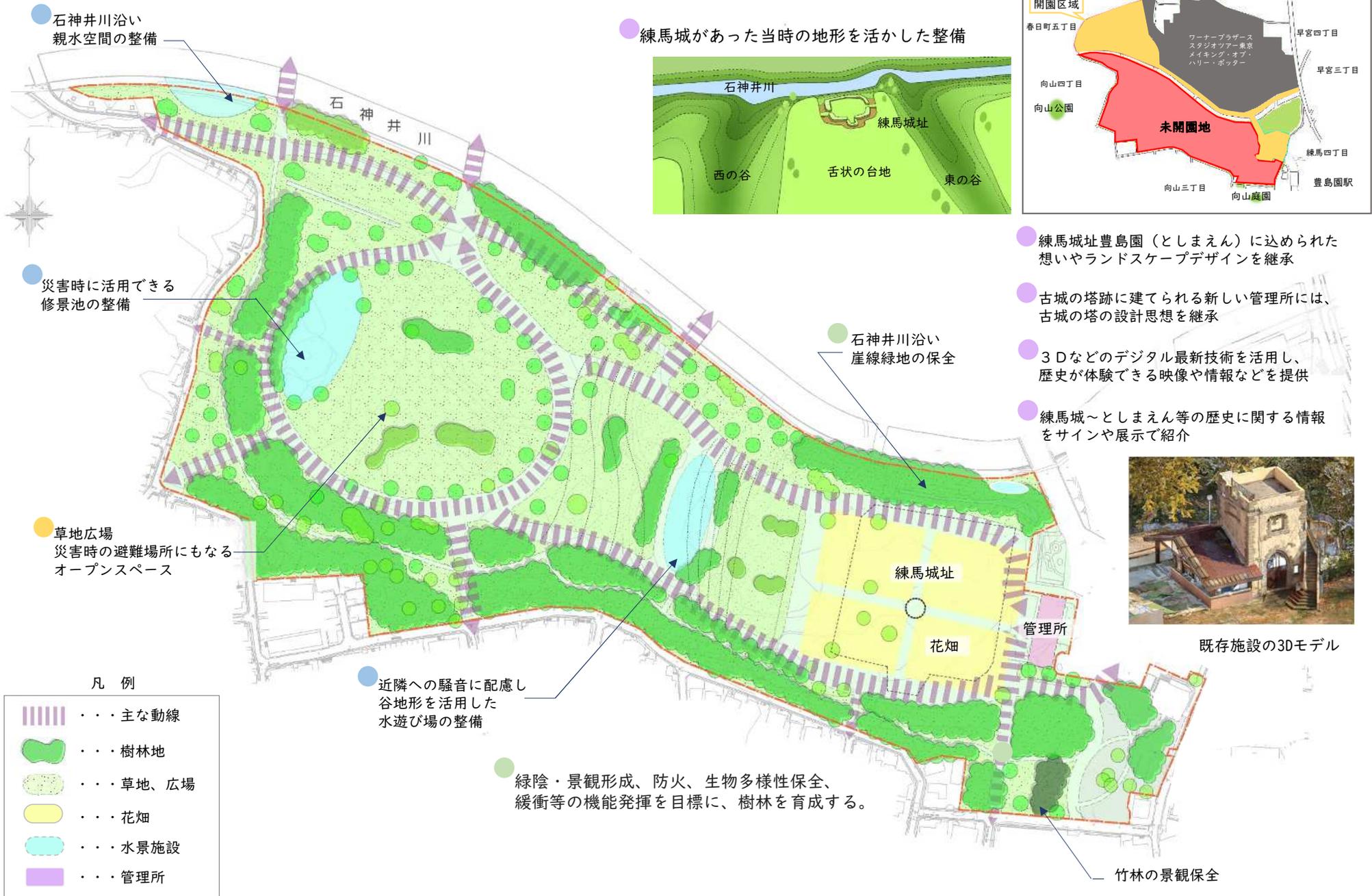
### 樹木

- 既存樹木や自然植生が残る崖線緑地は、できる限り保全する。
- 枯損木や外来種は伐採。工事上の支障樹木は、必要に応じて移植、伐採も検討する。
- 園内に樹木を新植し、樹林地を広げる。徐々に外周樹林を公園内側に移行させ、住宅地への落ち葉対策を図る。
- 緑陰・景観形成、防火、生物多様性保全、緩衝等の機能発揮を目標に、樹林を育成する。

### ■樹林の機能構成イメージ



## 具体化された整備イメージ図



練馬城があった当時の地形を活かした整備



練馬城址公園 案内図



- 練馬城址豊島園（としまえん）に込められた想いやランドスケープデザインを継承
- 古城の塔跡に建てられる新しい管理所には、古城の塔の設計思想を継承
- 3Dなどのデジタル最新技術を活用し、歴史が体験できる映像や情報などを提供
- 練馬城～としまえん等の歴史に関する情報をサインや展示で紹介



既存施設の3Dモデル

緑陰・景観形成、防火、生物多様性保全、緩衝等の機能発揮を目標に、樹林を育成する。

竹林の景観保全